

# 本書の利用に当たって

## 1 マニュアル発行のねらい

北海道周辺海域で漁獲される魚類の中で、漁業生産（生産量および生産額）や資源管理対策推進上の必要性等を考慮して選定された主要な24魚種、のべ42海域の資源評価や資源管理状況等について紹介し、広く理解と関心を深めていただくことをねらいとしています。

## 2 マニュアルの読み方

マニュアル各部の内容は次のとおりです。

### 魚種名・対象海域

魚種名、資源評価の対象海域、また、この海域における主な漁業と漁期、そして、漁場について記載しています。

### 生態

資源評価において必要な生態情報（分布・回遊、産卵期・産卵場、成長・成熟）を記載しています。

### 資源評価

その魚種の評価年度や、資源量や来遊量の指標を記載しています。また、漁獲量や、資源量指標の現在までの推移と、今後の動向等が記載されています。

#### ・2022年度\*の水準

過去20年間の資源量指標や北海道への来遊量指標を高位・中位・低位の3段階に区分し、評価年の資源水準や、来遊水準が、どの水準にあるかを示しています。



高水準



中水準



低水準

#### ・2023年度\*の動向

翌年の資源量指標や来遊量指標の動向を示しています。動向予測には、資源解析結果や、幼魚の現存量といったデータが必要で、こういったデータが得られていない資源では「不明」となります。

また、漁獲量やCPUEを指標に評価している資源で、変動が比較的緩やかなものについては、3年に2度程度「概要報告書」の作成にとどめることとし、これについての動向も「不明」となります。



増加



横ばい



減少



不明

〔※ 資源によって、対象年度は異なります。〕

## 1.スケトウダラ

### 日本海海域 【日本海北部系群】

主な漁業と漁期  
沖合底びき網：9～翌6月  
刺し網：11～翌3月  
はし網：11～翌1月



### 生態

#### ◆分布・回遊

石川県以北の本州および北海道の西岸、サハリン西岸、北部沿海州にかけて分布しています。ここでは、主たる分布域である渡島総合振興局管内福島町以北～宗谷総合振興局以南の日本海を日本海海域としています。

#### ◆産卵期・産卵場

◎産卵期は12～3月で、盛期は南で早く、北で遅い傾向があります。  
◎産卵場は檜山沿岸、岩内湾、石狩湾、雄冬沖、武蔵湾、利尻島・礼文島周辺にあるとされていますが、資源が大きく減少した現在、主要な産卵場は、檜山沿岸、岩内湾、石狩湾であり、雄冬以北の産卵場は小規模と考えられています。

#### ◆成長・成熟

	(3～5月時点)	
	体長(cm)	体重(g)
1歳	13	16
2歳	23	78
3歳	30	169
4歳	35	268
5歳	38	360
6歳	41	438
7歳	43	501
8歳	44	550
9歳	45	588
10歳	46	617
11歳	47	638
12歳～	47	654

\*1) 尾丈長：2006～17年10月に試験調査の採集時から作成した成魚試から推定  
\*2) 体重：海産種に室内飼育した尾丈長試集の成魚試から作成した尾丈長一尾重の  
アロメトリックから算出（いずれも星野ら、2021）  
\*3) 加齢の基準日：4月1日

#### ◎成熟年齢

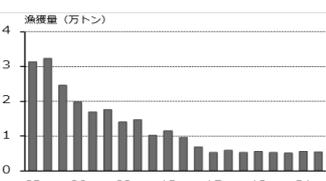
2歳から成熟する個体がみられ、5歳以上でほとんどの個体が成熟します。

### 資源評価

〔評価年〕4月～翌3月

〔資源量の指標〕産卵親魚量

2013年以降、漁獲量は1万トンを下回っており、2022年の漁獲量は5,439トンでした。高豊度な2012年級、2015年級、2016年級の加入により産卵親魚量が増加したことから、資源水準は中水準と判断されました。2023年の資源動向については増加と判断されました。近年の漁獲量は現在の資源管理の取組みにより低く抑えられています。



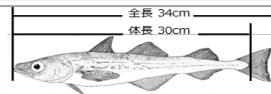
※選給研が委託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

問い合わせ先 北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係 電話 011-204-5477  
北海道立総合研究機構 稚内水産試験場調査研究部 電話 0162-32-7166

### 資源の維持・増大のために！

#### 資源管理の現状(主なもの)

- TAC(漁獲可能量)管理  
2023年漁期のTACは、大臣管理分8,341トン、北海道知事管理分は7,234トンです。(2023年11月現在)
- 資源管理協定(2019年3月更新)  
関係漁業者間で体長30cm又は全長34cm未満の未成魚保護を目的とする漁場移動等を定めています。
- スケトウダラ日本海北部系資源回復計画漁業者協議会  
沖底漁業で、操業日数の2割削減、小型魚の漁獲が2割を超えた際の漁区単位での漁場移動などに取り組むことが合意されています。



☆高豊度な年級群が発生しています。これを資源の維持・増大に繋げるには、漁獲強度を適正な水準以下で維持していくことが重要です。

### 資源の維持・増大のために！

現在行われている資源管理に関する取り組みについて記載されています。

また、資源の維持・増大に向けて必要とされる事柄らについて、記載されています。

### 問い合わせ先

さらに詳しく知りたい場合は、こちらにご連絡ください。